

panasonic.com/jp

第22回キャンパスベンチャーグランプリ(CVG)大阪

審査委員長

総評



本年度のキャンパスベンチャーグランプリ(CVG)大阪には、エントリー数156件、応募総数に恵まれている。審査の結果、最優秀賞には近畿大学の大谷諒馬君による「飲食ブランドを持つ事業者と導入したい飲食店を繋ぎ、顧客まで届けるサブプライチエールの提供事業」と、奈良先端科学技術大学院大学の立花巧樹君、登川仁至君による「君と体を「ゴミ拾い」で健康にするアプリ「Health Trash」」が選ばれた。前者は、ゴーストレストラン配達の経験に基づきコロナ禍にふさわしい課題をつかみ、詳細な競合他社分析と事業計画を行っていた。既にOIHを拠点にDharbor株式会社を起業している強みを感じた。後者は、スマートウォッチ装着時のゴミ拾いの可視化と気分推定に関する研究はCVG対策を積み、ア

浅見 徹

(国際電気通信基礎技術研究所へATR)社長

着時のゴミ拾いの可視化と気分推定に関する研究はCVG対策を積み、ア成果を使い、ゴミ拾いをビルポイントにそれぞれ通じた運動不足解消と社価は分かれ、セミファイナルのときから審査員に案で陥りがちな、ニーズの観点からも満足できる。審査の基準は「新規性・独創性」、「事業・市場馬君のプレゼンは、ニータ。」「表現力」からズから掘り起こした迫力

対策積み、アピールポイントに工夫

「サービスに対する自己評価が高すぎる」と感じた。取引先や利用者はそのサービスを「お得だ」と感じるだろうか。そもそも、お客は自分の利益があるサービスを選ぶ。プランを考へる時は、「選ばれるための独自の性・優位性に注力する」と、よりビジネス性が高くなるのではないかと。また、プレゼンも時間内に終えられるよう工夫していたが、ビジネス性に重点を置くこと、より伝わりやすくなると思う。

特別審査委員 講師

黒木 啓良

近畿経済産業局産業部 創業・経営支援課長



伝え理解得る工夫が大事

昨今のコロナ禍を踏まえ、昨年より社会課題解決や国連の持続可能な開発目標(SDGs)を意識したものが多かった。中でもビジネスプランを練り込んだもの、テクノロジーを活用し実証する

樋口 光生

中小企業基盤整備機構 近畿本部企業支援部長



高い志と力磨いて挑戦を

コロナ禍で、かつてない不確実性の時代にある中、企業経営では新たなビジネスモデル、DX(デジタル変革)に期待がかかっている。最終審査に選ばれたプランは、社会の課題を捉え、新たな発想で事業を展開しているというアイデアが

小牧 義昭

北おおさか信用金庫 専務理事・業務推進部長



提案いずれも素晴らしい

オンライン開催により最終審査会を実施できたことに主催として御礼申し上げたい。また、オンラインでのプレゼンにもかかわらず、参加した10組の提案はいずれも素晴らしい内容だった。北お

審査委員からのメッセージ (順不同)

大日電子 代表取締役 牧本 日出夫



ビジネス性に重点置こう

本年度は、コロナ禍で学校に通えない中、多くの学生がコンテストに挑戦してくれたことをうれしく思う。今回は、全体を通して

ロボリューション 代表取締役 小西 康晴



興味深い提案・内容数多く

結果、「キッチンレスで飲食事業の展開を可能にする仲介サービス」が最優秀賞となった。学生らしい自由な発想と、課題解決に向けたプロセスのユニークさ、そして現在のコロナ禍の飲食店が抱える課題解決にも一助となる点が目を引いた。

計数技研 代表取締役 早石 直宏



「情熱」知り、気持ち明るく

ファイナルに残った提案はどれもすばらしく、よく事業化したほうが良いと思った。技術面で不確かなところがあり事業を進めるにあたって厳しい局面もあるだろうと思う。そういつたときは楽しみながら乗り越えてほしい。今年に於いて特筆すべきことはすでに起業しているチームや海外展開まで事業計画をしている提案が多かったことである。コロナの時代にあって学生さんたちが積極的に新たな視点を獲得して、そして情熱的に世界を変えるために取り組んでいることを知り今年最後にとて面白い気持ちになった。

Monozukuri Ventures 代表取締役 牧野 成将



次の社会担うVBに期待

本年度のキャンパスベンチャーグランプリ(CVG)大阪は、コロナ禍での開催もあり、オンラインでの開催も大変な時代

創鼎代表取締役社長 安達 宏昭



社会貢献への意識感じた

ど、事業収益と社会問題解決の二兎を追う難問であるが、そのことに目を向け、果敢に挑戦する勇氣に敬意を表したい。

ビューティフルス マイル代表取締役 文 美月



学生らしい発想随所に

決をまさに自分事として捉えており、すでに「社会性」と経済性の両立の視点を自然にビジネスに組み込んでいるように思う。また、普段から自分たちが活用している会員制交流サイト(SNS)を使ったビジネスなど、学生らしい新鮮な発想も随所に見られた。女子学生の積極的な参加が多いのも特筆すべきだ。ビジネスを創出し発表する経験は将来必ず役に立つ。今回応募された方々のさらなる活躍を期待している。



斬新な発想のプラン期待

タスカケル 代表取締役 瀬川 寿幸

学生の皆さん、発表ありがとうございました。学生ならではの社会課題の捉え方が素晴らしいと感じました。最終的な評価は、収益性や技術力など強みが伝わったプランが高く評価されましたが、どのプランも継続して取り組んでほしい。特に、新たなサービスは、コンテストでは評価が低いことも多いので、評価を気にせず、試作やヒアリングなどのを実施し、具体的な収益に繋げていくための活動を継続すれば、素晴らしいビジネスになると思う。



起業への関心の高さ実感

第22回キャンパスベンチャーグランプリ大阪審査委員 (敬称略)			
審査委員長	浅見 徹	株式会社国際電気通信基礎技術研究所(ATR)代表取締役社長	
審査委員	牧本 日出夫	株式会社大日電子代表取締役	
	安達 宏昭	株式会社創鼎代表取締役社長	
	小西 康晴	株式会社ロボリューション代表取締役	
	早石 直宏	株式会社計数技研代表取締役	
	文 美月	株式会社ビューティフルスマイル代表取締役	
	牧野 成将	株式会社Monozukuri Ventures代表取締役	
特別審査委員	瀬川 寿幸	一般社団法人i-RooBO Network Forum事務局長	
	井村 仁香	株式会社タスカケル代表取締役	
	黒木 啓良	経済産業省近畿経済産業局産業部創業・経営支援課長	
	樋口 光生	独立行政法人中小企業基盤整備機構近畿本部企業支援部長	
	小牧 義昭	北おおさか信用金庫専務理事・業務推進部長	

Iwatani

水素で世界を動かせ。

燃焼してもCO₂を排出せず、大きなパワーを生み、枯渇しない水素。

2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。水素で、もっと社会を、時代を、世界を動かせ。

日本には、未来を変えるエネルギーがある。

水素シェア No.1 岩谷産業株式会社

水と生きる

ずっとずっと、水と生きていけますように。

「いのちの未来」を考えることは「水の未来」を考えること。

私たちサントリーは、森を育て水をはぐくみ、100年先200年先の未来へとおいしい水を届けてゆこうと思います。

水と生きる SUNTORY

「水と生きる」スペシャルサイト
<http://suntory.jp/MIZUTOIKIRU/>